



(令和3年度)

南城市英語教育の取り組み

【統括目標】

人が育ち、人が生きる、
心豊かな人材を育む教育・
文化のまちづくり

南城市教育委員会
(教育指導課)

住所：〒901-1495
沖縄県南城市佐敷字新里1870番地
TEL：098-917-5361
FAX：098-917-5436



1. 小中学校教育の充実 ～英語教育の充実～

○教育課程特例校の推進	小学校1, 2年生に、文部科学省の教育課程特例校の指定を受け、学習指導要領の教育課程を基準に本市独自の外国語活動の教育を編成し実施する。
○JET及びALT事業の充実	英語教育の充実に向け、英語コーディネーターを配置し、JET及びALTとのコミュニケーションの充実を図る。英語に関する興味・関心を高め、異文化理解教育と英語教育の充実に資する。
○英語習得への意欲の向上	本市では、英検受験者への検定料補助(2分の1)事業を行っている。上記2項目の推進と英検受験とを相乗的に関連させ、英語習得への意欲向上を図る。また、外部の関係機関等との交流を推進し、英語習得への意欲向上を図る。

2. コミュニケーション能力の育成

①小学校基地内交流 (教育指導課担当)	○南城市内の5年生以下を対象に、基地内学校との交流を行う。言語、文化、人種など様々な違いを受け入れ認められる国際感覚を養うとともに、外国語活動で慣れ親しんだ英語を、実際に活用してコミュニケーションを図り、基地内学校の児童との交流を通して、親睦を深めることをねらいとする。 ※R3年度、情勢を鑑み中止。
②インターナショナルスクールとの連携	1) 令和元年度、「小中英語担当者連絡会議」で、オキナワインターナショナルスクール学校視察。(1月) 2) 令和2年度「南城市中学生・英語スキットコンテスト」における副賞への協力。 *「OIS オキナワインターナショナルスクール『2021 Summer School』の1セッション」の参加招待券プレゼント。 3) 令和2年度・五年生PYP探求学習発表会(エキシビション)の見学。(3月) ※R3年度、情勢を鑑み委員会が参加。
③海外短期留学の充実 (生涯学習課担当)	4市村(東村、北中城村、中城村、南城市)で構成する、沖縄県内市町村海外短期留学実行委員会主催による事業で、中高生に海外で学習する機会を与えることにより、心の豊かさや国際感覚を養うとともに、国際性豊かな人材育成を目的としている。内容として、米国ワシントン州立大学に約3週間、市内在住の中学生・高校生20名を短期留学生として派遣している。 ※R3年度は情勢を鑑み、まちなか留学を実施。
④ESLキャンプの充実 (生涯学習課担当)	本市在住の小中学生(5, 6年生)、中学生を対象に、英語学習の機会を与えることにより、国際感覚を養うとともに、自己表現を培い、国際性豊かな人材育成並びに国際社会に適應する能力、資質の向上を図ることを目的とする。県内の社会教育施設等で、約1週間宿泊し、米国大学から招聘して講師による英語授業等を実施する。 ※R3年度、情勢を鑑み中止。
⑤中国国際交流の充実 (生涯学習課担当)	沖縄と中国は、文化的・歴史的に深いつながりがあり、本市の中学生と現地の中学生との交流を図り、中国の文化・歴史・教育に対する相互理解と友好親善、広い視野に立った国際性豊かな人材の育成を目的とする。内容としては、中華人民共和国江蘇省江陰市八中学生12名を約1週間派遣し、現地学校内で交流、民泊、市内視察等を実施する。 ※R3年度、情勢を鑑み中止。

3. 南城市中学生英語スキットコンテスト

南城市内の中学生に、日頃の学習の成果を発表する機会を提供することにより、学習意欲の高揚と言語表現力や思考力などの多様な能力の向上を図ることを趣旨とする。

*平成26年度から令和元年度までは「南城市中学校英語プレゼンテーションコンテスト」を実施していたが、令和2年度から沖縄県や島尻地区の「英語スキットコンテスト」実施に伴い、本市でも実施することとした。Skit（スキット）とは、日本語では寸劇（短い劇）という意味で、生徒一人一人の発話量が増え、英語による表現力や語彙力の向上が期待できる。

「(H26～R1)英語プレゼンテーションコンテスト」



「(R2)英語スキットコンテスト」

(動画審査)R3, 2月10日実施

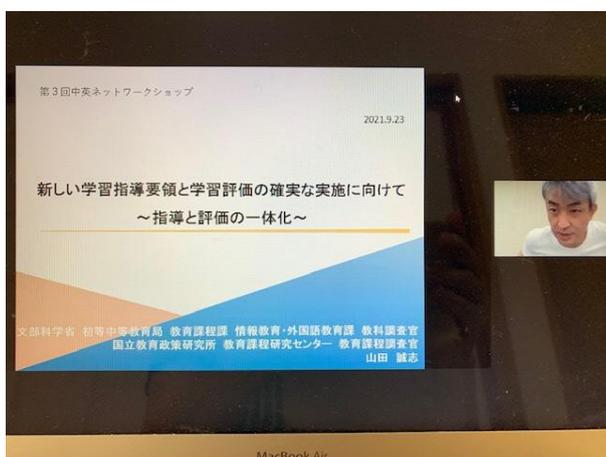


「(R3)スキットコンテスト」

市内4校に沖縄尚学を加え5校10チームがエントリーしたが、コロナウイルス感染防止対策で中止となった。

4. 第1回南城市小中外国語研修会 (令和3年9月22日実施)

文部科学省、初等中等教育局より教科調査官を招聘し、公開授業への指導・助言や講話を通して、新学習指導要領における、小学校外国語の指導や評価、小中連携授業づくりの充実に資する。R3年度はオンラインによる講話となった。



(文部科学省 教科調査官 山田誠志 氏)



(南城市立大里南小学校) 授業実施 10月7日

南城市小中学校外国語自主研修会 (令和3年12月21日実施)



(作家、元灘高校英語教師、おきなわ学びのネットワーク理事 木村達哉 氏)

「英語の指導法・モチベーション維持について」



5. 実用英語検定（英検）検定料半額補助

平成 23 年度から、沖縄県対米請求権事業協会の支援により、児童生徒の英語コミュニケーション能力を図る一助として、市内小中学生の英検検定料の半額補助事業を行っている。

【南城市小中学校 受験者数】

	H29	H30	H31(R1)	R2	R3
	受験者数	受験者数	受験者数	受験者数	受験者数
2級	11	12	24	7	16
準2級	53	88	98	103	118
3級	223	194	223	199	254
4級	213	173	180	210	285
5級	114	169	192	184	206
合計	614	636	717	703	879

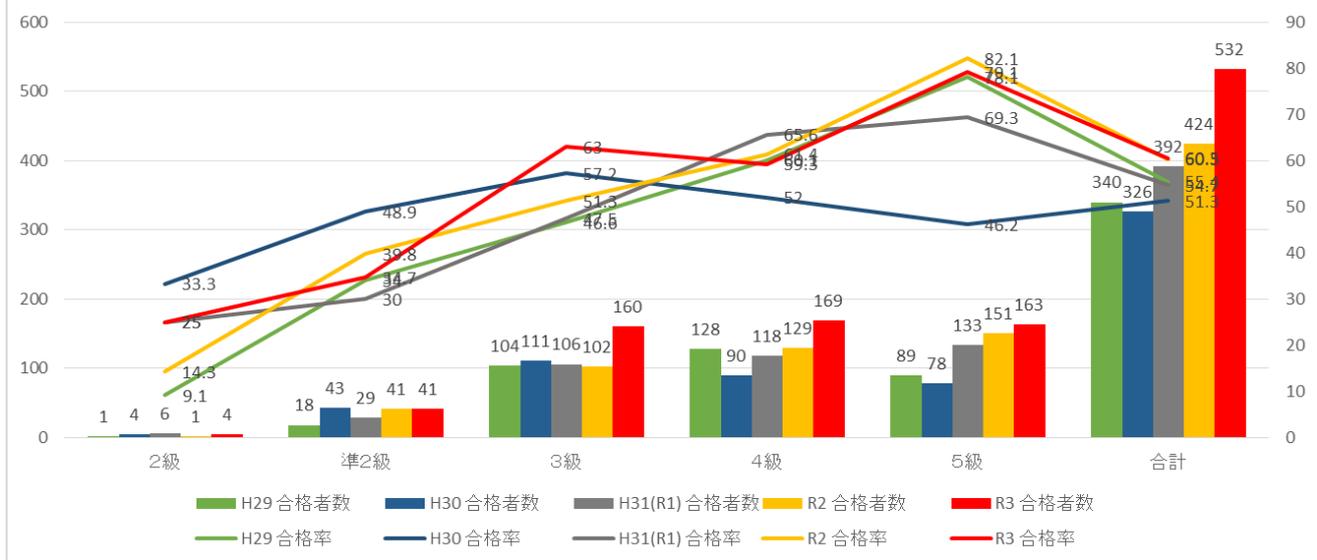
受験者数は、各級とも増加し、過去 5 年間で最高の受験者数である。小学校へ外国語科が導入され意欲が高まっている。

小中とも合格率も伸びてきている。3 級以上の受験者と合格者も増えてきた。

【南城市小中学校 合格者数と合格率】

	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	H29	H30	H31(R1)	R2	R3
	合格者数	合格者数	合格者数	合格者数	合格者数	合格率	合格率	合格率	合格率	合格率
2級	1	4	6	1	4	9.1	33.3	25	14.3	25
準2級	18	43	29	41	41	34	48.9	30	39.8	34.7
3級	104	111	106	102	160	46.6	57.2	47.5	51.3	63
4級	128	90	118	129	169	60.1	52	65.6	61.4	59.3
5級	89	78	133	151	163	78.1	46.2	69.3	82.1	79.1
合計	340	326	392	424	532	55.4	51.3	54.7	60.3	60.5

英語検定合格者数・合格率(H29-R3)



6. 英語ブロンズテスト（英検 Jr. 学校版）

小学校外国語活動の成果を検証し、英語学習の動機付けに役立てることを目的とする。

方針として、教育課程特例校の一環として行い、令和 3 年度は市内の全小学 4 年生を対象に実施した。

（令和 4 年度は、対象を小学 6 年生に変更して英語シルバートテストを実施する。）

年度	受験者数（人）	平均	標準偏差
2021 年度	515	74.6	13.2
2020	503	86.1	11.6
2019	512	85.4	10.4
2018	485	84.5	10.6
2017	434	83.0	10.6
2016	478	83.6	12.2

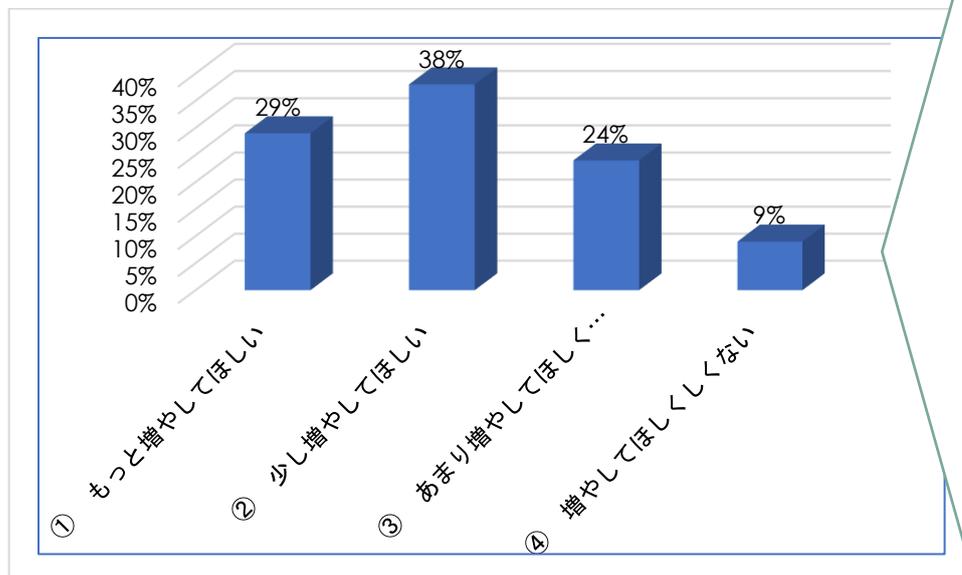
2020 年度までは小学校 6 年生、2021 年度は 4 年生が実施。

【アンケート集計】

Q1：「英語の授業をもっと増やしてほしいですか」

	① もっと増やしてほしい	② 少し増やしてほしい	③ あまり増やしてほしくない	④ 増やしてほしくない
%	29%	38%	24%	9%

* 集計値は、無回答を除外して集計したものです。



* Q1 のアンケートの結果より、約 70% の 4 年生が、英語に興味を持っている。残りの約 30% の生徒は、英語に対する苦手意識が感じられる。言語活動を中心に据えた授業を行い、活用の楽しさを味わわせたい。また、授業以外での、ALT の先生方と気軽に交流できる雰囲気をつくりたい。

7. 特別の教育課程の内容

(1) 「教育課程特例校」の経緯

本市は、平成 19 年度から文部科学省より「研究開発校」の指定を受けて、小中連携による 9 年間の統一した英語教育を実施し、平成 23 年度から 3 年間、研究開発校の指導内容・指導体制を継承・発展する目的で文部科学省より「教育課程特例校」の指定を受け、小中一貫した音声及び活動重視の英語教育の授業実践に努めてきた。平成 26 年度から 3 年間の事業継続を経て、平成 26 年度から小学校においてこの事業を継続して行っている。

(2) 目標

コミュニケーション能力の素地の育成

(3) 特例校のメリット

- ① 小学校での外国語活動の授業時数が統一して確保できる。
第 1 学年⇒ 年間 15 時間 第 2 学年⇒ 年間 15 時間
- ② 市内小学校において、統一した指導体制を取ることができる。
- ③ 全小学校に市雇用 ALT または JET プログラム ALT を配置し、外国語活動の充実が図れる。

(4) 必要となる教育課程の基準

- ① 小学校第 1～2 学年に新設教科「外国語活動」を実施する。

* 小学校第 1～2 学年は、生活、音楽、図画工作、体育から計 15 時間縮減し、「外国語活動」に充てる。

- ② 他教科・領域からの充当時数

学年	小学校第 1 学年	小学校第 2 学年
教科名 (削減時数)	生活 (- 3)	生活 (- 3)
	音楽 (- 4)	音楽 (- 4)
	図工 (- 4)	図工 (- 4)
	体育 (- 4)	体育 (- 4)

(令和3年度小学校第1学年～第2学年の英語活動の様子)



(1年生) Lesson8「くだものだいすき」

買い物ごっこで必要な表現に触れる。
An apple, please. / Here you are



(2年生) Lesson5「いろいろな野菜」

“Do you like ~ ?”の表現やそれに対する答え方に触れる。 Yes, I do. / No, I don't.

8. 小中英語教育担当者連絡会



～実施日～

- 第1回：6/29 (火)
- 第2回：9/22 (水)
- 第3回：3/4 (金)

9. ALT meeting

* 毎回テーマを決め、それぞれのALTによる教材や授業紹介のプレゼンテーションを行った。

～実施日～

- 第1回：4/27 (木)
- 第2回：7/6 (火)
- 第3回：10/13 (木)
- 第4回：1/14 (金)
- 第5回：3/17 (木)

